神の摂理

「今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです。」(創世記45:5)

天地を創造されたあと(創1:1)、主である神は創造されたものから手を引き、それぞれが独自に生存するようにと手放されたのではなかった。時計職人や機械技師のように世界を設計し、動くように造り動かして、やがてゆっくりと止まるままに放っておくのではない。むしろ神は愛に満ちた父としてご自分が造られたものの世話をなさるのである。そしてご自分の民の生活と創造されたものの管理にかかわり続けられた。神の摂理ということばは被造物とご自分の民に対するこの不断の心遣いのことを言うのである。そしてこのことばが意味する最も重要なことは神の供給、監督、個人的関与である。けれども神の摂理の配慮の中で最も確実なことは人類の歴史に対する介入で、出来事の流れを変えたり影響を与えたりすることである。

摂理とは何か？

神の摂理には少なくとも三つの面がある。

(1) 保持　神は創造された世界をご自分の力によって保持しておられる。ダビデは次のようにはっきりと告白している。「あなたの義は高くそびえる山のようで、あなたのさばきは深い海のようです。あなたは人や獣を栄えさせてくださいます。主よ」(詩36:6)。聖書は神の保持する力は「万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています」(コロ1:17)という御子イエス・キリストを通して実現していると言っている。生命の最も小さい部分でさえもキリストの力によって、互いに結び付けられているのである。

(2) 供給　神は創造された世界を維持されるだけではなく、世界に住む被造物の必要を供給しておられる。世界を創造された時に神は季節を造られ(創1:14)、人間や動物に食物を提供された(創1:29-30)。洪水で地球が破壊されたあと、神は次のように言ってこの供給の約束を更新された。「地の続くかぎり、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜とは、やむことはない」(創8:22)。詩篇のいくつかは、造られたものすべてに対して必要なものを供給してくださる神の恵みについてあかししている(詩104:, 145:)。神はご自分の創造力と配慮の力をヨブに啓示され(ヨブ38:-41:)、主イエスは神が空の鳥と野のゆりにさえ必要なものを備えておられることを明らかにされた(マタ6:26-30, 10:29)。神は人間の物質的な必要だけではなく霊的な必要にも配慮しておられる(⇒ヨハ3:16-17)。そして神はご自分の民(神を信じ従う人々)に対しては特別な愛と配慮を示されると聖書は啓示している(詩91:, →マタ10:31注)。使徒パウロはピリピの信仰者に対して、「私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいます」(ピリ4:19 →注)と書いている。主イエスの最初の弟子の一人であるヨハネによれば、神はご自分の民が、「たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように」(→Ⅲヨハ1:2注)望んでおられる。

(3) 管理　神はご自分の造られたものに対して保持と供給をしておられるだけではなく、世界を治めておられる。神は主権者(完全な支配権と権威を持つ)であるから、歴史上の事件は神が許されたときにだけ起こる。時に神はご自分の目的を達成しご自分を民に現すために直接介入される(→「**神のみこころ**」の項p.1207)。けれども歴史を終結するまでは、神はこの世界でのご自分の最高の力と支配に制限を加えてこられた。聖書は、サタンが「この世の神」(Ⅱコリ4:4)であり、この現在の悪い時代の中で相当の支配力を働かせていると言っている(→Ⅰヨハ5:19注, ⇒ルカ13:16, ガラ1:4, エペ6:12, ヘブ2:14)。つまり、現在の世界は神に逆らっており、その結果サタンの奴隷(ロマ6:16)にされているのである。けれども覚えておくべきことは、神の側のこの自己制限は一時的なものだということである。なぜなら神は既にサタンと悪魔の勢力をみな滅ぼす時を定めておられるからである(黙19:-20:)。

なぜ苦しみがあるのか？

神の摂理は抽象的な概念(具体的なかたちで現されないもの)ではなく、神に反抗して勝手な道を歩いている罪深い世界での日常生活にかかわるものであることを聖書は示している。

(1) 人はだれでもその生涯の中で時に苦しみを体験して、必ず「なぜ」という疑問を持つ(⇒ヨブ7:17-21, 詩10:1, 22:1, 74:11-12, エレ14:8-9, 19)。そのような体験をすると、悪がなぜ現実にあるのか、なぜ神のご計画が悪の影響を受けるのかという疑問を持つようになるのである。

(2) アダムとエバが最初に神に逆らう道を選び、勝手なことをしたことによって罪は世界に入り込んだ。その罪の結果を人間が体験することを神は許された。たとえばヨセフは兄弟たちのねたみによって残酷にもエジプトに奴隷として売られて多くの苦痛を体験した(創37:, 39:)。エジプトで神を敬う生活を送っていたとき、ヨセフは不道徳の罪を不当にも負わされて牢獄に投げ込まれて(創39:)、2年以上もそこに抑留されていた(⇒創40:1-41:14)。神はご自分のご計画を成就するためには罪の影響を排除することができるけれども、また人々の悪い行動によって苦しみに遭うことも許されるのである。ヨセフのいのちを守り神の目的を達成するために、神が兄弟たちの罪を通しても働いておられたことをヨセフは後に認識したのである(創45:5, 50:20)。

(3) 私たちは他人の罪の結果で苦しむだけではなく、自分自身の罪深い行いの結果をも体験する。罪深い選択をすれば、ある結果が必ず生れることを神は私たちに知らせようとされた。たとえば不道徳や姦淫の罪はしばしば結婚、家族など、重要な人間関係を裂いてしまう。ほかの人々に対する抑制のきかない怒りの罪は重大な傷害や殺人にさえも発展する。どん欲の罪は盗みや横領となり、そのようなことをした人に対しては投獄という判決結果を生み出す。

(4) 世界の苦痛はまた、「この世の神」であるサタンが人々の思いをくらませ、だまし、生活を支配して勝手な仕事を行うことが許されていることから起こる(Ⅱコリ4:4, エペ2:1-3)。新約聖書は悪霊が精神的に苦しませたり(マコ5:1-14)、肉体的に危害を加えたことで苦しんだ人々の例(マタ9:32-33, 12:22, マコ9:14-22, ルカ13:11, 16)で満ちている(→「**サタンと悪霊に勝利する力**」の項 p.1726)。

この世界に苦痛があるのは神が私たちに悪を引起こしているとか、人生の悲劇全部に直接かかわっているということではない。神は決して悪や汚れたことを起こしたり行うように仕向けたりはなさらない(ヤコ1:13)。けれども神はご計画を実現するために、人々の神への忠誠心を試すために、そして神を認めて神に立返るようにするために悪を許し指示し支配されるときがある。けれども何が起きても、ご自分に対して忠実な人々のためには神はすべてのことを益としてくださる(→マタ2:13注, ロマ8:28注, →「**正しい人の苦しみ**」の項 p.825)。

神の摂理と私たちとの関係

(1) 造られたものに対する神の摂理と配慮は正しい人(神が求めることを行う人)と、不義の人(神に逆らう人)両方にある程度の影響を与える(⇒マタ5:45)。けれども神の特別な配慮と導きを私たちの生活の中で体験するには、私たちにもいくつかの責任があることを聖書は啓示している。

(2) 神の特別な摂理は神に従い、神の願いやご計画を行う人に及んでいる。たとえばヨセフの場合は神を敬い従っていたので、神も重んじて導いてくださった(→創39:2-3, 21, 23)。主イエスご自身も神の守りの配慮を体験された。ヘロデ王の兵士たちが多くの赤子と同じように殺そうとしたとき、主イエスの両親は神に従いエジプトに逃げて行って危険から逃れることができた(→マタ2:13注)。それは神の守りの配慮である。神を敬い日々の生活で神の導きに頼る人には神がその道をまっすぐにしてくださるという約束が与えられている(箴3:5-7)。

(3) 摂理の中で神は教会やそれとかかわる人をひとりひとり導いてくださる。けれども神に従う人々はいのちを与えるメッセージをほかの人々に伝える場合、神がどのように導き用いてくださるのかに気付かなければならない(⇒使18:9-10, 23:11, 26:15-18, 27:22-24)。

(4) キリストを信じる信仰によって神を愛し頼り、神に服従する人々に神はあらゆることを働かせて益

としてくださる(→ロマ8:28注)。

(5) 神は私たちに応答し配慮してくださる。困難な悩みの時にも心からの祈りとひたすらな信仰によって神を見続けるなら、神は絶えず助けを与えてくださる。祈りと神への信頼を通して私たちは神の平安を体験し(ピリ4:6-7)、力を受け(エペ3:16, ピリ4:13)、神のあわれみと恵みとおりにかなった助けを受けることができる(ヘブ4:16, →ピリ4:6注)。自分のため、またほかの人々のために私たちは信仰をもって祈ることができるのである(→ロマ15:30-32, コロ4:3注, →「**とりなし**」の項 p.1454)。